



いわきクリニック

YUKIUSAGI

いわき
岩谷医院会報 第16号 平成19年5月14日

〔開院記念号〕

岩谷医院

院長 岩谷 文夫 (循環器専門医、心臓血管外科専門医、健康スポーツ医)

副院長 岩谷 恭子 (循環器専門医、内科認定医、産業医)

岩谷医院ホームページアドレス <http://iwaya-clinic.com>

開院5年が過ぎました

5月14日は当院の開院記念日です。早いものでもう5年が過ぎ6年目に入りました。地域により良き医療の提供をということでヒヤシンス医療をモットーに走ってきましたが、医院の存在が少しでもお役に立っていればスタッフ一同にとってこれ以上の幸せはありません。4月の末に登録患者数が3000人になりました。5月5日の日曜当番医は56人の来院数でしたが、午後5時でほぼ終了でき、平成15年1月1日の伝説の当番医(74人の来院数で午後10時まで診療)と比較して随分スムーズな診療が出来るようになったことを実感しています。しかし『慣れはよし狎れは恐ろし我が業務』です。6年目を迎え、一同気を引き締めてそれぞれの仕事に取り組みますのでどうぞよろしくお願いいたします。

院長より
一言

Today Birds, Tomorrow Man

皆さん、飯田輝男さんの連載、福島の野鳥シリーズは楽しく読まれていますか? 「モズ」からはじまり「ジョウビタキ」、「ツグミ」そして今回は「ウグイス」と「メジロ」です。私も何とか野鳥通になろうと隈畔など歩くときに注意はするのですが、なかなか見つけられないですね。見出しの英語は『鳥たちのいのち、私たちの明日』と訳されているようですが、自然環境の保護の重要性を示す言葉だと思います。飯田さんから寄贈されたイヌワシとクマタカという雑誌を医院に置かせていただきました。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、著者の一人、飯田知彦さんは息子さんだそうです。この本の中でも、鳥たちの棲める自然環境、生態系の重要性が述べられています。医療にも同じことが言えると思います。限りある自然と同じように医療費にも限りがあります。私たち自らが作り上げてきた保険制度という貴重な財産を有効に利用することを意識しながら日々の診療にあたりたいと思っています。

連載I(その5)

心臓手術から三十年、
多くの方々に感謝して

—岩谷医院に通院五年、そしていま—

伊達市梁川町 酒井知子さん

岩谷医院に通院してからの心臓は実に平静で、力強く、私自身も精神的に落ち着き、心配なことは院長に何でも相談し、アドバイスをいただいています。心臓エコーなども定期的にいただいている副院長の優しい言葉や、スタッフの笑顔にいつも励まされています。そして私が勝手になされた「岩谷画廊」。四季折々の絵画や書、彫刻や写真などを眺めながらの待合室には待ち時間を忘れさせてくれる「和み」があります。暖色系が使われた床壁、イス、調度品などのアレンジは患者さんの気持ちを思い、副院長が考えられたと伺っております。

外出や旅行の際には岩谷医院の通院手帳をバックに入れていたため、いつ、どこで、異常があっても通院手帳を示せば対処してもらえるという安心感があります。また診察を受けた日は家に帰ってから通院手帳に書かれた内容を自分でも確かめ家族にも見ってもらうようにしています。

こうしていろいろな方に支えられ、励まされながら生きてきた三十年。これからもこれまでお世話になった方々や、毎日働き続けてくれる心臓に「ありがとう」を忘れずに一日、一日を大切に過ごして生きたいと思えます。私も古稀を過ぎましたが、主人は「俺より早く死ぬなよ、元気でいてくれよ」が口癖で、これからもお互い手綱を絞めたり、緩めたり、ともに生かされ、生きて行きたいと思っています。いろいろなことがあった三十年、まだまだ書きたいこともあります。終わりにあたり、岩谷医院のご繁栄と院長、副院長はじめスタッフの皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます、そしてこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

古希過ぎて なお生きるよと 除夜の鐘 知子



* 心臓手術という大きな壁を乗り越え三十年、酒井さんはお元気に通院されています。ご家族の協力、支えが大きな力になっているんですね。「手術後三十年の集い」をご家族で催され、ご主人から涙の感謝状が渡されたそうです。写真はその時の様子とその感謝状です。心温まる話ですね。知子さん、これからも益々お元気で(院長)

男のオシヤレ

福島市北沢又 鈴木 一さん

オシヤレは下着からというがこれはなかなかたいへんである。

私は終戦直後から米軍にしばらくいたことがあったが、それはまさに私の青春時代で、そのためか、世間からは「アメリカかぶれ」などと言われている。

その頃の米軍の軍靴はリーガルだった。そのせいか私もしばらくリーガルをはいたが、その後、マドラスやクラークスもはいた。

戦後、『パン』の社長だった石津謙介氏は近年亡くなったが、会社が倒産した後も服飾評論家として活躍した。氏の本は大分読んだ。そして今では、アイビールックでストレスを解消しているが、日本製ではあきたらず、アメリカ、イギリス、イタリヤ製など、いやはや男のオシヤレはなかなか大変である。

* 鈴木さんのオシヤレのセンスには副院長も感心しています。オシヤレは気持ちりをフレッシュさせてくれますね。みなさんもとどうぞ(院長)

短歌、俳句、川柳

坂大りんさん(福島市佐倉下)

短歌

ヒヤシンス 枯れることなく 伝えられ

病む諸人の ころ和らげ

あやめ咲く 岩谷医院の夫婦岩

清き流れに 永遠に幸あれ

俳句

ヒヤシンス 香り流るる 太田町

五月晴れ 夢は広がる 五周年

川柳

ゆきうさぎ 耳に鉢巻 五周年

ゆきうさぎ 五才になりて 幼稚園

小丸孝也さん(福島市蓬萊町)

短歌

もののふの 心に秘めし 山桜

はかなき風情 散り際に見ゆ

初雛の 鱒りし朝 しみじみと

この幼雛に 望み託せり

川柳

平然と 告知受け止め につこりと

メモしたが メモした用紙 さがしてる

つまずいて ようやく知った 老いの坂

切り抜きも 山と積もれば スクラップ

俳句

逝く春や 役しりぞきし 独り酒

ふるさとに つづく野道や 桃の花

葉桜に 悲運の白虎 よみがえり

瀧桜 幻ならず 散るを見る

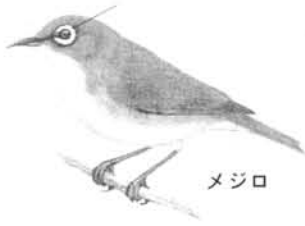
ウグイスとメジロ
うぐいす餅はメジロの色です

福島市太田町 飯田 輝 男さん

昔から「梅に鶯」と言いますが、不正確です。正確には「梅にメジロ、声はウグイス」なのです。メジロは花のミツが大好物なので、冬にはツバキに、春には梅に群がっていますが、鳴き声小さくて聞こえません。そこにウグイスの「法、法華経」という大きな声が、付近の笹やぶから響いて来るので、「梅に鶯」の言葉のままに、メジロをウグイスだと、間違ってしまうのです。その証拠に「うぐいす餅」はメジロの色なのです。ウグイスの色はうす茶色。

ウグイスは、低木のやぶ(茂み)にすみ、笹やぶに巣を作り、やぶの中で「法、法華経」とさえずります。その声は驚くほど大きく、姿が見えないのに声だけは四方に響き渡ります。声が大きく音色も良いので、日本三鳴鳥(ウグイス、コマドリ、オオルリ)の一つ。ウグイスは、やぶの中で鳴くので、声で存在が分かるのであって、高木や梅の枝に出て鳴くことは、余りありません。ウグイスは、いわば姿の鳥ではなく、声の鳥なのです。昔からの「松に鶴、竹に雀、梅に鶯」は、めでたい物の組み合わせだから、今後も変わることはありません。

* 私も勘違いをしていました。大変勉強になりました。(院長)



メジロ

メジロは斜めに止まる



ウグイス

ウグイスは水平に止まる

エジプトに旅して

福島市八島田 高橋 宣子さん

私の誕生日に、娘がエジプト八日間の旅をプレゼントしてくれました。エジプト航空の直行便で成田から十四時間、首都のカイロに着きました。

カイロのエジプト考古学博物館の威厳のある建物、展示品のツタンカーメンの黄金のマスク、ラムセス二世のミイラ、世界最古の花束(今で言うドライフラワー)等々、花の好きな私にとっては大感激。

ギザの三大ピラミッド、スフィンクス。アスワンでは、アスワンハイダム、未完のオペリスク等々、寝台車や砂漠の中をバスで大移動、毎日が刺激の連続で早朝に寝台車から眺めたナイル川は、ゆったりと流れ、農夫がロバで荷物をこぶ姿は車社会の日本ではとても考えられない情景でした。

サッカーの、ラクダ乗りは乗りそこねてラク馬し、大笑い、これは楽しい出来事でした。今回の旅の最大の見所、世界遺産のアブシンベルとルクソールの大神殿、砂漠の中に突如として出現する巨大神殿、その迫力、スケールの大きさに、また王家の谷のツタンカーメンの黄金の柩そして壁画や象形文字の美しさに目を奪われ、驚きと感動の連続で、古代の人々の高度な知能、精巧な技術にも感動し、歴史の重みを感じました。

娘に感謝しながら、二人で異文化に触れる事が出来たのも幸に思いました。また出発前に、先生に「気にせず、薬をちゃんと飲めば、だいじょうぶですよ。」とアドバイスをいただきました。無事帰ることが出来ました。先生有り難うございました。

* 出発前は不安だった高橋さん。帰国後はまた「旅行をしたいです」って。案ずるより生むが易しです。(院長)



蒲倉琴子さん(福島市松川町)

俳句

水差しの 水のこぼれ透く 寒九かな
春帽子 目深に心 隠し行く
芥子菜を ふすめて妣を 恋ふてをり
ぞんぶんに 青きを踏みし旅寝かな

スキーが大好き!

福島市矢剣町 鈴木 輝 一さん

リフトもなければ、スキー靴もスキーウェアもなく、普通の靴、ジャンパーという格好で、友達からスキーを借りてきて五色スキー場へ出かけたものです。冬の晴れた日の遊びはスキーやソリすべりに決まっていたもの……。

さあ冬に向かうと、どうしても動くことや外出そのものが億劫になりがちですが、年を重ねても生活を活発にすることで老化を防ぎ、恒常性の機能を正常に保てます。そこで、私は運動不足になりがちな冬には、二十日位は大好きなスキーをやることにしています。(そのうちの十日位は樹氷・霧氷の美しい山形蔵王で、スキーを楽しんでいます) スキーをやったあとのビールやお酒のうまいこと、食事もおいしく、睡眠も快く、ぐっすり……自分なりに生活を楽しくしています。

プロスキーヤーの三浦雄一郎親子(息子 七十歳、父百歳)がアルプスのモンブラン山頂からスキーで滑降されたニュースでは、その感動と驚きは今も忘れることができませぬ。三浦親子様より勇気をもらい、自分も頑張らねばと思っておる昨今です。

岩谷先生のご指導のもと、健康管理に留意しながら大好きなスキーを楽しんでいきたいと思えます。

* 両手を挙げているのが鈴木さんです。七十八歳です。楽しさが伝わってきます。(院長)



医院からのお知らせ



【福島市市民検診のお知らせ】

- 1) 実施期間
平成19年7月2日(月)～11月30日(金)
- 2) 検診内容
基本検診、肺がん一次検診（胸部レントゲン検査）、大腸がん一次検診（検便）、肝炎ウイルス検査

【個人情報保護に関して】

当院では個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。個人情報の利用目的については院内に掲示してありますのでご覧ください。

個人情報の取り扱いについてお気づきの点がありましたら受付までお気軽にお申し出下さい。

【診療について】

副院長は火曜、水曜の午前中のみ大原総合病院での診療になります。それ以外の日は、院長、副院長の2人体制になりますので、以前より待ち時間は少なくなっています。また診察の順番は患者さんの状態により変わることがあります。ご了承下さい。

【駐車場について】

医院横の7台の駐車スペースの他に小島薬局の駐車場も空いている場合には利用可能ですので受付にその旨お知らせ下さい。雨のときは駐車場および玄関前はすべりやすくなっておりますのでご注意下さい。玄関にはタオルを用意しておきますのでご自由にお使い下さい。

保険証：保険証は事務処理上毎月必要となりますので、その月の初回来院時には必ず受付に提出してください。

あ と が き

『心臓手術から30年』酒井知子さんの連載が終了いたしました。本当に有難うございました。俳句の蒲倉さんは今回初登場です。これからよろしくお願いたします。「ゆきうさぎ」は何でもあります。そしてインターネットを通じて世界中に発信しています（ただし日本語ですが——）。皆さん気楽にご投稿下さいね。

我が家のペット⑦

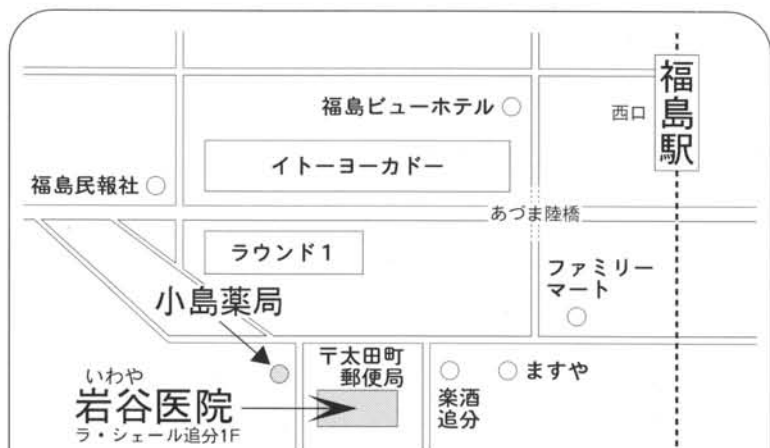
我が家の息子同様の愛犬。名前は、「りゅう」です。雷、水、踏み切りの音が大好きな一寸臆病な番犬です。立派な犬小屋があるのでいつも家族みんなのそばがよく茶の間での生活です。車に乗ることが大好きなハンサムな息子「りゅう」をよろしく
福島市町庭坂 船山義衛さん

* コーヒーも好きなのかしら（院長）



小島薬局だより

最近、調剤ミスの記事が何回か新聞に載りました。あってはならないことです。当薬局ではミス防止のために薬の名前、効能、単位、数量の確認をしながらくすりをお渡しするようにしています。また一日の終わりには、薬局に残った薬を数えて渡し忘れがなかったかをチェックしています。患者さんも是非確認をお願いいたします。また薬局に来てから処方箋の内容の変更を希望される場合は、一度医療機関にお戻りいただくこととなりますのでよろしくお願いたします。



【福島駅西口より 徒歩7分】 〒960-8068 福島市太田町17-27
ラ・シェール追分1F
でんわ 024-528-7770/FAX 024-528-7780

★ 診療時間 ★

平日（木曜日を除く）は 午前9時～12時 午後2時～5時30分
土曜日は 午前9時～午後2時（昼休みなして診療いたします）
休診日は 日曜日・祝祭日・木曜日

★ 診療項目 ★

内科疾患・循環器疾患・動静脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診・健康スポーツメディカルチェック など